



原題：海洋天堂
監督：薛曉路（シュエ・シャオルー）
出演：李連杰／文惠／桂綸鎂／羅勇／尹敏求／朱媛媛
製作年：2010年
中国、98分
配給：クレストインターナショナル

父親役のジェット・リーは、一切のアクションを封印し、新境地に挑んだ。息子役を演じるウェン・ジャンの熱演も光る。

アクションを封印したジェット・リーが父親役を熟演

チェン・カイコー監督の『北京ワイルド』（2002年）は、私の大好きな中国映画だが、その脚本を監督と共同して書いたのが、本作で監督デビューした北京電影学院卒の才媛シュエ・シャオルー。本作は同監督が14年間続けてきた自閉症支援施設でのボランティア活動をもとに作られた。

『北京ワイルド』と同じく父子愛がテーマだが、前者は父子間のコミュニケーションであるのに対し、本作は親子が自閉症のため、父親からの働きかけがメインとなる。その意味では本作のストーリー構成の方がはるかに難しくなっていた。中国における自閉症支援施設のあり方についてしっかり調査した。

父親役のジェット・リーは一切のアクションを封印し、新境地に挑んだ。息子役を演じるウェン・ジャンの熱演も光る。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る (37)

（たなか・しんぺい）
1949年生まれ。岡山県岡山市生まれ。大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会（石川賞）、同年に日本不動産学会（実務研究賞）を受賞。『昭和の中国映画大観』（2004年）『二つのオアシス 弁護士』（2010年）著者。『公社 日本友好協会』、『NPO法人大岡山大学友好協会』。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る (38)

（たなか・しんぺい）
1949年生まれ。岡山県岡山市生まれ。大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会（石川賞）、同年に日本不動産学会（実務研究賞）を受賞。『昭和の中国映画大観』（2004年）『二つのオアシス 弁護士』（2010年）著者。『公社 日本友好協会』、『NPO法人大岡山大学友好協会』。



原題：香港製造
監督・脚本：フルーツ・チャン
出演：サム・リー／ネイキター・イム／ウェンダー・ス・リー／エイミー・タム
製作年：1997年
香港、108分
配給：コナイテッドエンタテインメント

返還直前の香港、若者たちの生き様を瑞々しく斬新な映像で

返還直前の香港、若者たちの生き様を瑞々しく斬新な映像で

高映画の名作『青春の少年殺人事件』（91年、『シネマ40』58頁）における「小公園」と「217」とのグルーブ抗争に生きた若者も全く同じだ。時代や国は違っても、そんな年頃の若者はみんな似たようなものだ。抗争の中で生き抜くことはある意味で楽しみであり、励みにもなるもの。そして、そこには必ず純愛も登場する。しかし、前の2作でも、恋する若い男女を待ち受けているのは、なぜか「ロミオとジュリエット」と同じような悲劇ばかり。さて本作は？

97年、中国への返還を目前に控えた香港。約1世紀に渡り前に描かれた香港。約1世紀に渡り前に描かれた香港。約1世紀に渡り前に描かれた香港。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る

（たなか・しんぺい）
1949年生まれ。岡山県岡山市生まれ。大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会（石川賞）、同年に日本不動産学会（実務研究賞）を受賞。『昭和の中国映画大観』（2004年）『二つのオアシス 弁護士』（2010年）著者。『公社 日本友好協会』、『NPO法人大岡山大学友好協会』。



原題：桃姐
監督・脚本：許鞍華
製作・原作：李恩霖
脚本：陳淑賢
出演：葉德嫻／劉德華／秦海璐／王祖藍／林二汶
製作年：2011年
中国・香港、119分
配給：ツイ

メイドの介護に奔走、強い絆で結ばれる主従の関係

メイドの介護に奔走、強い絆で結ばれる主従の関係

フィリピン人が多いと聞いていた。しかし、華家のメイドとして13歳から73歳の今まで60年間も4代の主仕えてきた桃姐さんが中国人の訳は？ 私は桃姐さんという女性の名前を知らなかったが、本作の企画から参加し、ロジャー役で出演したアンディ・ラウは誰か知る大スター。そんな彼女がノーギャラで出演し、メイドの職を世話を焼くのは一体なぜ？ 本作誕生に至る経緯にも興味を持ってもらいたい。

家族のほとんどは海外に移住し、今は香港で映画プロデューサーとして活躍するロジャー。彼の世話をしていく桃姐さんがある日、脳梗塞で倒れる。ロジャーに連絡をかけるが、桃姐さんが倒れたことを知らず、メイドに頼って老人ホームに入ると告げるが、

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る

（たなか・しんぺい）
1949年生まれ。岡山県岡山市生まれ。大阪大学法学部卒。都市開発に関わる訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会（石川賞）、同年に日本不動産学会（実務研究賞）を受賞。『昭和の中国映画大観』（2004年）『二つのオアシス 弁護士』（2010年）著者。『公社 日本友好協会』、『NPO法人大岡山大学友好協会』。



原題：路辺野餐
監督・脚本：毕赣
出演：チェン・ユン／ユ・シシ
製作年：2015年
中国、110分
配給：リアリズム・イクフィルムズ・ドリームキッド

ピー・ガン 監督第一回長編作、オンラインシアターでも配信！

ピー・ガン 監督第一回長編作、オンラインシアターでも配信！

手持ちの2万円（約35万円）で撮影に着手し、その後1000万円（約1600万円）を借金して完成させた本作は、あれよあれよという間に有名になった。18年8月2日付の新華社通信は、「過去5年で一番優れた中国国産映画（中国映画）を50年進歩させる」と絶賛。また『キネマ旬報』20年3月上旬号では、特集「中国映画が、とんでもない！」内で、ピー・ガン監督をページにわたって解説・絶賛している。

凱里市にある小さな診療所で働く医師のチェン・シエンは、距離のわりに時間がかかるので、注意」とガイドブックにあり、スクリーン上ではその山道をバイクやトラックで疾走するシーンがエンディングに登場する。チェン・シエンは、道中のダンマイという小さな町で過去、現在、未来を繰返す。

主人公チェンを演じるチェン・ユンシエンは、ピー・ガン監督の奥の叔父で素人ながらその演技力に注目が集まった。中国のアンナ・カリナと評されるルナ・クオックの名演と共に必見である。

プロジェクト・グーテンベルク 暦札王

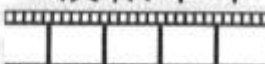


原題：無雙 Project Gutenberg
 監督・脚本：莊文強
 出演：周潤發／郭富城／張靜初／馮文娟／廖國智／周家怡／方中信／高捷
 製作年：2018 年、香港・中国、130 分
 配給：東映ビデオ

今の時代、中国を中心にキャッシュレス化が進んでいるが、日本ではまだまだ高齢者を中心に現金崇拝志向が強い。日本では、2024年から一万円札が廃沢案に一、五千円札が津田梅子に、千円札が北里柴三郎に改められた上、新紙幣への切り替えが決まっているが、アメリカでは今、新たに100ドル紙幣を発行するらしい。そうなのと、「画家」を中心とした

「家」役を演じる今年御年65歳になるチョウ・ユンファを主役に起用し、第38回香港電影金像奨（香港アカデミー賞）で優秀作品賞をはじめとする多くの賞を受賞した本作「インファナル・アフェア」三部作の脚本家フエリックス・チョンがメガホンを取り、隔年連りの連人が犯罪の連鎖に巻き込まれていく姿を、予測不能な展開と迫力のアクションで描いた。

熱血弁護士
坂和章平



中国映画を語る(41)



1949年堂横松山生れ、大阪大学法学部卒。新聞界に關する識見を数多くがけ、日本都市計画学会・山賀・同年に日本不動産学会「業務製作賞」を受賞。「昭和の中国電影史」の「04」の「二」のオチチャン并譯。はじめ映画に關する著書多岐。大阪府日中友好協会役員。

チョウ・ユンファのアクション再び！ 犯罪に手を染める画家を執演

廣札製造集團の出番に……?

孫文の義士団



原題：十月圍城
製作：陳可辛、黃建新
監督：陳德森
出演：甄子丹／
王學圻／梁家輝
／謝霆鋒／胡軍
／李宇春／曾志偉
製作年：2009年
香港・中国、139分
配給：ギャガ

1906年、辛亥革命前後の香港を舞台に、孫文を清朝の暗殺団から護衛する義士たちの戦いを、中国香港の資本と人材を結集し描いた。清王朝にとって危険人物である孫文が香港に入り、武装蜂起のための幹部会議に臨みリーダーとして出席することがわかれば、西太后がその暗殺指令を出すのは当然。500人の暗殺団に対し、孫文を護衛する8人の義士団が結成される。賭博好きの警官、少林寺出身の豆腐売りの巨匠、ワケありの物之い、そして朝廷から追われた元・将軍とその娘など武闘派の面々。また本作のストーリー展開をリードする、中国日報社長で孫文の香港入りを手引きするチェン・シャオバイ、孫文に多額の資金援助をしてくれた商人リリー・ユータンの2人。さらにリリー・ユータンの息子で外국의大学合格が決まりながら、

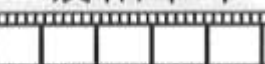
辛亥革命の舞台裏で起きた、激動の物語を壮大なスケールで活写！

孫文の彫武者となるリ・子

ングアン、忠実な事夫アスも、戦闘能力こそないものの義士団の一員として重要な役割を果たすことになる。彼らこそ1906年10月15日午前10時健の1時間会議のために上海からやってきた孫文が、無事出席して議事を務め、香港から無事脱出することに命をかけた「孫文の義士団」なのだ。そんな義士団を中国香港合作映画の本作では、オールスター以上の名俳優陣が演じている。

香港の陣可幸製作、陳偉森監督により、中国資本としての提議を築いたエンタメ巨編として製作された、「HERO」「LOVE R.S.S.」「レッドクリフ」を超える大作になっているが、香港テイストと中国（大陸）テイストがいかにかうまく融合しているか、そんな期待が膨らんでくる。それは観てのお楽しみだ。

熱血弁護士
坂和章平



中国映画を語る〈42〉



1942年愛媛県松山市生まれ。大阪大学文学部卒。新聞記者。新聞に関わる際、読者数が多いことが、日本都市計画学会「出展」、同様に日本建築学会「展覧著作賞」を受賞。「現代中国電影大観」2004年12月のオピニオン撰稿士。この映画に関する著書あり。『日本人政府の中国政策』

単騎、千里を走る。



原題：千里走单骑
監督：張藝謀、呉宇
康勇（日本版監督）
出演：高倉健／キ
ー／しのぶ／中井
一／李冰冰／鄭永
／ヤン・ジェンボ
製作年：2005 年
中国・日本、10
分
配給：東宝

日本を代表する映画俳優
高倉健を主演に迎え、「HERO（英雄）」（2002年）、
「LOVERS（十国埋伏）」
（04年）路線から一転して「あ
の子を預けて」（01年）とい
う（1999年）、「初恋のきた道
（我的父親母親）」（99年）とい
う、本来の路線に戻った情義謀
監督による本作である。

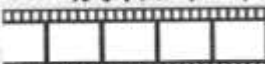
三国志に登場する有名な物語
「千里走単騎」は、劉備の妻子
とともに曹操の手に落ちた劉備
の義弟關羽が、曹操の再三の「引
き止め策」にも関わらず単騎で劉
備の妻子を伴って劉備のもとへ
帰っていくという感動の物語
が劇中で繰り返して上演される中国
人の大好きな演目だが、この話
と「健さん」との関係は……

本作の舞台となった雲南省
麗江は、世界文化遺産に指定さ
れた実にすばらしい町。04年11
月に麗江を訪れた私はここに3

雲南省麗江市の奥地の村が舞台、父と息子の絆を描く

存分にその美しさを堪能

熱血弁護士
坂和章平



中国映画を語る (43)



1949年愛媛県松山市生まれ。大阪大学法学部卒。都市開発に関わる経験を経多く手がけ、日本都市計画学会「石川賞」、同年に日本不動産学会「業績賞」を受賞。昭和的中国電影大賞（2004年）「21世紀のオランダ」弁護士・松田武の著書多岐。（公）松田武の著書多岐。（公）

在りし日の歌

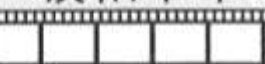


原題：地久天長
Sa Long My Son
監督：王小帥
出演：王景春／
詠梅／齊溪／王
源／杜江／艾麗
嬌
製作年：2019年、
中国、185分
配給：ビターズ・
エンド

中国の「一人っ子政策」は特異なものだが、1949年の「新中国」建国後、放置しておけば、次々と人口が増え続け、食料、住宅、衣服、教育、等々あらゆる分野で経済的に成り立たないことが明らかになっていく状況で、下「共産党一党独裁体制ならではの政治が実行（強行）」された。毛沢東が指導し、1967年から始まった文化大革命が1978年に終焉した後、鄧小平の指導下で始まった1980年代の改革開放政策と一人っ子政策。その最中の同じ日に生まれた2人の男の子、リウ・シンとシェン・ハオとその家族の姿を通して、そこから2010年頃までの約30年間の激動の現代中国の歴史が描かれていく。

国有企業の工場に勤めるヤオジュンとリーユンの夫婦は、一人皇子のシンシンと幸せに暮らしていた。工場の間僚インミン

熱血弁護士
坂和章平



中国映画を語る (44)



「一九四〇年愛媛県松山市生
れ、大阪大学法学部卒。都
府に在る雑誌を数多く
存は、日本都市計画学会
出典。側耳に日本不動産
『美術著作賞』受賞、『灰
の中国電報大観』二〇〇八
「三つのオックス」刊行
しめ映画に関する調査等々。
〇著入大阪府中友好協会の



薬の神じゃない！
王子印度神油

原題：我不是藥神
監督：文牧野
出演：徐峥／王傳君／周潤發／王傳卓／章宇／楊新鳴
製作年：2017年、中国、117分
配給：株式会社シネメディア

2014年に中国で実際に起きた、中国の医薬業界改革のきっかけになったジェネリック薬の密輸販売事件を映画化した。18年に中国で500億円の興行収入を挙げたことは中国人の友人から聞いていたが、日本ではなかなか公開されなかった。

上海で強壮剤の販売店を営むチョン・ヨン、店には開古島が鳴き、妻にも見放され、白血病で瀕死に近づいている父親の世話に追われる日々。そんなある日、怪しげな男リョ・ショウウィーが、インドで売られている格安の慢性骨髄性白血病の薬を輸入してくれと依頼してきた。この男自身がその患者で薬を手放せないが、中国で正規に売られている薬は高価のため破産してしまう。しかし、インドで売られている薬は同じ性能で値段が20分の1だから、インドから強壮剤を仕入れるルート

中国医薬業界に改革をもたらした実際の事件を描く

を持つチョンが輸入してくれれば、多くの白血病患者にも安く売ってあげられるというものだった。最初は申し出を断ったチョンだったが、金に目がくらみ、ジェネリック薬の密輸・販売に手を染めていくことに。一般的に、薬は「医薬用医療品」と「一般用医薬品」に分けられ、「一般用医薬品」はさらに「新薬」と「ジェネリック医薬品」に分けられる。新薬は長い歳月と膨大な費用をかけて開発されるため、製薬会社にはその薬を独占的に製造する権利が与えられるが、特許期間を過ぎるとその権利は国民の共有財産となり、他の製薬会社から同じ有効成分を使った薬が販売されるようになる。それがジェネリック医薬品だ。インドの安い薬は中国の認可を受けていないもので、ジェネリック医薬品とは異なるから、その密輸・販売が重罪になるのは当然だ。しかし、チョンたちの罪の行方は？ 本作は大きな反響を呼び、中国13億人の幅広い社会的議論を巻き起こし、社会（政治）を変える原動力になった傑作である。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る (45)



熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る (46)



追龍
原題：追龍
監督：王晶、关智耀
脚本：王晶
出演：甄子丹／鄭則士／劉德華／鄭則士／劉德華
製作年：2017年、中国、128分
配給：インターフィルム

時代は1960年、舞台は香港。警察で汚職が蔓延し黒社会とつながっていることで、市民を恐怖に陥れていた。この時代に実在した黒社会（香港マフィア）のボス、ン・セイホウと香港警察総長のロイ・ロウをモデルに描くことがあった。黒社会との関係を描き出していく。監督は「ゴッド・ギャンブラー」シリーズなど多くのヒット作を手がけてきたバリー・ウォンと「プロジェクト・グーテンベルク」の「コールド・ウォー」香港警察、聖たる正義などの警察監督を務めてきたジェイソン・クワン。

中国の潮州から仕事を求めて香港にやってきたホーは、ヤクザ同士の争いに参加して警察に逮捕されるが、ホーの腕力に目を付けた警察署長のロウに助けられる。そのことに恩を感じたホーは、黒社会でのしあがり

力とカネの源泉は？ アヘンの威力は？ 実話を映画化

ていき、今度はその立場からロウクを助けるなど、2人は次第に友情で結ばれていく。ロウクが香港警察のトップである総長になりながらも、黒社会と癒着し、五億総長（5億ドルを持つ総長）という異名を持っていたのは一体なぜか。私は運送された直後の香港無行を見たが、残念ながらその時は九龍には行けなかった。しかし、1960年当時の、九龍城壩（東洋の魔窟）と呼ばれた49年の中華人民共和國創立で、中国共産党から逃れた人々がここに流れ込み、行政権が及ばない場所だったことで、薬物売買や賭博など、ありとあらゆる違法行為が行われた無法地帯として有名だった。当時の香港や九龍におけるヤクザの力の源泉はどこにあったのかという点、それはアヘンだ。当時の香港や九龍では、ヤクザのみならず、黒社会と結託したロウクたち警察幹部もそのうまみの中にどっぷり浸っていた。英国統治下の香港以降の時代の流れを押さえる中で、こんな2人の男の悲哀をしっかりとみしめたい。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る (47)



妻への家路
原題：歸來／COMING HOME
監督：張藝謀
出演：陳道明／章子怡／張藝謀／陳小北／周潤發／劉佩琦／趙煒
製作年：2014年、中国、110分
配給：ギャガ

中国映画では、1986年から1997年まで続いた文化大革命をどう描くかは大きな問題。しかし、張藝謀（ゲリン・ヤン）の小説「妻への家路」を原作とした本作は、同じ文革時代を取り扱っていても、「リナザシの樹の下で」のような若い2人の純愛ものから難病ものへと急転換するお涙ちょうだいものではない。ステイヴン・スピルバーグ監督が「1時間、涙が止まらなかった」パワフルで深い「とっついたらど、奥の深い、濃厚な人間ドラマである。監督は本作でポイントの原典原典を口にしたチャン・イーモウ。で「右派」として捕えられていたルー・イエンシーは、革命の終結と共に「解放」され、妻のフォン・ワンイーのもとへ帰る。こんな再会には照れと涙がつもる。ところが、ト

これぞ夫婦の絆、これぞ母娘の絆。重厚な人間ドラマ

ンチンカンな会話の後、自分のことを「方さん」と呼ばれた。平切な言葉で「出てって」と怒鳴られた。こりゃ、一体どうなってるの？ フォンは心因性記憶障害という病気に悩まされており、夫への愛は微塵も変わらないのに、ルーの顔の記憶だけが消えていたのだ。私が興味深かったのは、医師がルーに治療として「デジャブ」の活用を勧めることだ。デジャブとは、フランス語で既視感のこと。医師も正確に覚えていなかったフランス語を、ルーが知っていたのは、さすが知識階級として確立されただけのこととはある。そして、ルーの記憶を回復させるための究極のデジャブ療法とは？ そのルーの戦法によりフォンに救われ、「回家」したタンタンが見せる、美しいバレエのシーンも必見だ。本作のフィナーレは、母娘の絆が回復し、手紙を渡す。これほど切実な人というルーの位置付けが定着してから数年後のあるシーンとなる。心温まるストーリーを、涙とともにじっくり見届けたい。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る (48)



世界で一番ゴッホを描いた男
原題：中国梵高
監督：ユイ・ハイ
出演：趙小勇
製作年：2016年、中国・オランダ、84分
配給：アーク・フィルムズ／スターキャット

深圳は鄧小平の改革・開放政策により創られた街だが、そこには大分という世界最大の油画家村がある。1989年に香港の画家が20人の画工を連れてきたのが始まりで、現在画工の数は1万人超。1年に数百万点の油絵が世界中へ売られ、その総額は2015年には6500万ドルを超えている。本作は、そこで複製画を作る画工・趙小勇を主人公としたドキュメンタリー映画である。

独学で油絵を学んだ趙小勇が家庭を持ち、数人の画工を雇って20年もの間複製画作りをやってきたのは、ゴッホの生まれたるオランダとの複製画の取引が拡大したため。夏はクーラーのない仕事場で上半身裸で眠り、朝起きるとすぐ仕事にかかるハードスケジュールで、画工たちと共に描いたゴッホの複製画は10万枚以上。そんな彼の願

深圳の油画家村の画工は職人？ それとも芸術家？

いは一つ、ゴッホの本物の絵を見たいということだった。趙小勇にとって、オランダは聖地。その聖地を訪れ、はじめて本物のゴッホの絵を見た時の感動は、如何ばかりだったろう。他方、ゴッホ美術館前の土産店に、自分が描いたゴッホの自画像が飾られていたのにはビックリ！ しかも、その値段は価値の約10倍だったから、さらにビックリ！

しかし、まさに百聞は一見に如かず。彼は、自分が模写した絵と本物の絵は、色も筆遣いも全然違うことを実感。またオランダの街を歩き、ゴッホがいたのに表現したか模倣する。その結果、大分に戻りオリジナルな創作意欲で筆を持つ。まるでゴッホと同じ！ 俺はもう模写する職人ではない、芸術家を目指すんだ！ そんな自覚と意欲が芽生えた趙小勇の顔が大きく変化していることに注目！

訥々と語る趙小勇の姿からは、彼がいかに誠実に絵と向き合っているのがよく分かる。タイムトリップの男の生きざまを見せてもらえたことに、感謝！